

## 令和2年度第1回一関市健康づくり推進協議会会議録

- 1 会議名 令和2年度第1回一関市健康づくり推進協議会
- 2 開催日時 令和2年11月12日（木）午後2時から午後3時30分まで
- 3 開催場所 一関保健センター 栄養指導室
- 4 出席者
  - (1) 委員 千葉京子委員（会長）、吉川眞理子委員（副会長）、畠山文子委員、三浦富久子委員、木村義人委員、村上哲委員、小笠原慈夫委員、藤田浩人委員、吉家義博委員、坂本紀夫委員、熊谷恵子委員、松川栄一委員、畠山とき子委員、岩渕宏紀委員、内田テルコ委員、佐藤とみ子委員  
※ 欠席委員：木村静恵委員、菅原むつみ委員  
※ 代理出席 仲本光一委員（佐々木吉信氏）、佐藤親幸委員（阿部信一氏）
  - (2) 事務局 佐藤和浩保健福祉部次長兼健康づくり課長  
及川久美子子育て支援課長補佐兼母子保健係長、  
永澤仁也健康づくり課長補佐兼地域医療推進係長、  
大内純子健康づくり課長補佐兼健康推進係長、  
ほか健康づくり課職員6名
- 5 議題
  - (1) 健康いちのせき21計画（第二次）について
  - (2) 令和2年度主要な保健事業について
    - ・ 新型コロナウイルス感染症の影響と対応
  - (3) その他
- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者 1名（報道機関）
- 8 佐藤副市長挨拶

お疲れ様でございます。当協議会の設置者であります勝部一関市長であります。昨日今日と全国市長会の用務で東京に出張しております。今の時期に東京出張は大丈夫かと思うのですが、新幹線で行きまして、東京駅で新幹線を降りましたならば、電車や地下鉄には乗らず、まっすぐタクシー乗り場に行き、タクシーに乗ります。行き先は霞が関と永田町しかないのですが、それぞれの会議が終わりましたならば、タクシーに乗ってまっすぐにホテルに行って、ホテルから一歩も出ないという生活をして、今日帰って来る予定となっております。そのため、私が代わりに挨拶をさせていただきます。

まず、皆様方には大変お忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。只今、委嘱状を交付させていただきました。今後どうぞよろしくお願ひいたします。そして、新型コロナウイルス対策のため、皆様方にはマスクの着用や入口での手や指の消毒、検温などにご協力いただきまして、感謝申し上げます。

健康づくり推進協議会でございますが、市民の健康づくりのために設置されたものでございまして、そのときどきのテーマについて皆様からご意見を頂戴しております。本日、市で準備させていただきました案件につきましては二点ございます。一つは第二次の健康いちのせき21計画でございます。もう一つは、令和2年度主要な保健事業についてということで、新型コロナウイルス感染症の影響と対応というものを準備させていただきました。このうちの健康いちのせき21計画につきましては、平成29年度から10か年の計画でございます。まもなく前期5か年が終了するということで、中間評価について説明させていただきます。もう一件の本年度の主要な保健事業についてであります。本年度の保健ということで申し上げますと、やはり新型コロナウイルス感染症になると思います。様々な対策を講じてきておりますし、これからも様々な対策を講じていく必要がございますので、ご意見を頂戴したいと思います。

計画の中間評価についてですが、役所というのは計画を作るときには、時間や手間をかけエネルギーを使い、皆様方からもご意見をいただくわけですが、作った後の計画が実行できているか、あるいは計画の目標、狙いとしていたところが達成できているかといったフォローが手薄になってしまいます。計画の進行管理は非常に重要なものでございます。特に計画を作る段階で想定していなかったことが生じたならば、そこに対して機動的に方向性を修正する、あるいは追加するなりして、市民の健康ということが主要なターゲットであれば、そこに向かって変えていくということが必要でございます。そうした意味で申し上げますれば、既に市民の健康づくりを進める中で、追加してきたものも様々ありますけれども、新型コロナウイルス感染症は5年前は誰も想像していなかったことであり、最終年度に向けて規模を縮小していく、あるいは追加していくということは、非常に重要な議論の対象であると考えております。

今、様々な追加を行ってきたと申し上げましたけれども、本年度、新型コロナウイルス感染症に起因して、市では9回にわたって補正予算を編成してきました。大まかに申し上げますれば、第一には市民の感染防止というものがあります。さらに、市民の生活支援というものがあります。様々な産業経済にも影響を及ぼしておりますし、普段の生活でも大変苦勞されている方が多くいらっしゃいます。そして、もう一つが経営支援でございます。様々な産業において影響が大きいので、経営面から支えていこうとするものであります。したがって、市のコロナ対策の基本は、まず感染防止があつて、さらにその

上に生活支援、経営支援という内容となっております。

9回の補正予算について、事業数や補正額はどのくらいになっているのか、計算してきました。感染防止の分については、54の事業を追加しました。補正の総額は約42億4,180万円でございます。生活支援の分については、17の事業があって、その総額は121億円となっております。この中には10万円給付も含まれていますが、これは市が一旦いただいて、市の事業として皆様にお配りするということになりましたので、その分で金額が膨れています。それから経営支援でございますが、40事業で17億5,800万円となっております。合計いたしますと、111事業で、181億円を超えた予算となっております。市の年間の当初予算の一般会計分が約600億円ですので、プラス181億円で、現在は800億円を超えており、合併以来最大の規模となっております。

こういったことをしてきましたが、これはあくまでしてきたことであり、まだまだこれからしていくことがあると思います。そういったことについて、皆様から様々なご意見を頂戴したいと思います。皆様方にはこの任期中、様々な観点からご指導賜りますようお願い申し上げます。簡単ではございますが、開会に当たっての挨拶とさせていただきます。

## 9 会長、副会長の互選

協議に入る前に会長、副会長の互選を行い、会長に千葉京子委員、副会長に吉川眞理子委員が選任された。

## 10 協議内容

### (1) 健康いちのせき21計画（第二次）について

事務局から、資料1に基づき説明した。質疑、意見なし。

### (2) 令和2年度主要な保健事業について（新型コロナウイルス感染症の影響と対応）

事務局から、資料2に基づき説明した。質疑、意見なし。

また、各委員から、コロナ禍において工夫しながら行っている健康づくりに関する取組の紹介をしていただいた。

委員 私は、地域で百歳体操やかみかみ体操の世話をしている。

コロナ禍によって、5月、6月は活動を控えていたが、7月20日頃から再開した。やはり高齢者の方々は体操もさることながら、話語りを求めている。そういったこともあり、ずっと家の中にいるとストレスが溜まるし、介護予防という部分もあるので、活動を再開したわけである。最初、かみかみ体操は口から唾が出るということもあって遠慮していた。百歳体操はマスクをして活動できるので、大丈夫だろうということで行っていた。最近、かみかみ体操を再開したが、舌を動かす、口を大きく開けるという体操なので、マスクをしている

と口を動かさずらいので、フェイスシールドを皆さんに買ってもらった。フェイスシールドは、100円ショップで買えるので、装着していただいて活動している。そういった活動の中で、お年寄りの方々も自由に話語りができるようになった。ただ、お茶を飲みながら、せんべいを食べながら話をすることがなくなっており、少し寂しいなと思っている。再開に向けて動き出したということをお知らせさせていただく。

事務局 週イチ倶楽部や各地域のサロンについては、再開に踏み切れない時期があり、慎重に再開されている様子が見受けられた。市としては感染予防の部分で、それぞれの団体で取り組める具体的な方法を皆さんと一緒に考える機会をもつようにしており、安心しながら、ただし、正しく恐れながら取組を進めていただいている。今後ともご協力いただけるようよろしくお願いいたします。

委員 医療機関で新型コロナウイルスに感染することを危惧して、受診控えをする方がおり、検診受診率に影響が出ていると思う。

一関市は新型コロナウイルス感染症患者を診られる医療機関が県内で最も多く、30近くの医療機関で患者を受け入れられる体制を整えている。

当初は、発熱があると医療機関をたらい回しにされ、具合がどんどん悪くなるのに医療機関に掛かれないため、発熱を申告せずに医療機関を受診してしまうことが一番怖い蔓延の仕方だと考えられた。そのため、PCR検査の体制を整えて、先へ先へと対応してきた。そのことが功を奏しているのか、一関市の皆さんには、新型コロナウイルス感染症で困ったとか、発熱で受診できる医療機関がないということにならないような体制を整えることができているのではないかと思う。

ただ、現時点での感染者は1人ということだが、潜在的にどのくらい流行っているのかということには分からないので、皆さんには引き続き、マスクの着用や手洗いを徹底していただき、互いに協力し合って医療圏を守ってほしいと思う。

委員 歯科医師は、抜歯や歯を削ることを診療として行っている。元々、感染症には敏感であり、注意して診療を行っているので、コロナ禍で特別に変わったということはないが、益々注意するようにはなった。

その他に、待合室で診療を待つ患者さんの中で、顔見知りの方が3人も集まると密の状態話をしてしまうので、なるべくそうならないように、予約の時点で患者が集中しないように工夫している。大きい病院と違って、歯科医院の待合室は狭いので、その部分で気を遣っている。

委員 私たちの団体の活動の中心は、医師に手作りの料理を差し上げて、食べていただくことであったが、コロナ禍で今年はずっと活動ができていない。新しい生活様式の中で、このままでは活動そのものがなくなってしまうのではないかと困っている。何かいい方法があれば教えていただきたい。

委員 感染症対策というわけではないが、医師会の先生方に手を挙げていただき、臨時診療所の開設もだが、他と違った形で実施しているところであり、本当に助かっている。お互いにルールを守って、業務ができているという状況である。新型コロナウイルス感染症に罹患するのが怖く病院に行けないため、薬を飲んでいないという方が多々おり、そういう方に対しては、電話再診を行っている病院もあることをお伝えしている。

手作りの料理を提供する際の対策だが、なかなか難しいが、しっかりとルールに則って行えばいいのではないかと。前向きに考えたほうがいいと思う。

委員 私たちの団体では、ふれあい一皿運動という手作り料理を一人暮らしの高齢者に配達する活動をしており、調理の際は、三密にならないことを意識している。以前は20人で調理していたところを10人くらいに減らし、間隔を空けて調理している。配達には保健推進委員や民生委員の方に手伝ってもらっているが、保健センターに入るときには、必ず手指消毒やマスクを着用し、配達の数も制限している。このような工夫をし、6月から活動しており、12月まで行う予定である。調理する人を制限すれば何とかできるのではないかと感じている。

委員 今回新型コロナウイルスに感染した方が1人出たが、新聞には6つの医療機関を回ったと書かれていた。私は病院が多い場所に住んでおり、高齢の方から、どこの医療機関を受診したのかという問合せがきて困っている。マスコミに報道を控えていただくことはできないのか。

委員 そもそも、新型コロナウイルス感染症患者に関する情報は、保健所が把握しており、保健所は外部には情報を漏らさない。

市民からすれば、近所の医療機関を受診したのかどうかはすごく知りたい情報だとは思いますが、その情報を開示したときの影響がどのくらいあるのか、風評被害がどのように出てくるのかということが分からない。

委員 自粛している活動が結構あるようだが、先ほど話にあったとおり百歳体操を再開したところで感染者が出たということにならないよう、さらに慎重にやらなければいけないと思っているし、気を付けることは当然だが、まずは楽しく続けられることを考えていかなければいけないと思っている。

委員 盛岡市では新型コロナウイルスの感染者が出てから、献血を行っていただけ

る方が減っている。一関市でも月1回の街頭での依頼活動を、月3回に増やしている。現在、全国的に血液が不足している。一関市ではまだ1人しか出ていないということだが、できる限り献血できる方には献血していただきたいと思う。また、皆様から献血にご協力いただくようお話していただければ幸いである。

委員 新型コロナウイルスへの感染を心配して、住民主体で行う通いの場の開催を自粛する傾向がある。そこで、高齢者の閉じこもりなどの予防のため、地域のケーブルテレビを活用し、家でもできる運動を呼びかけた。一関市内で3地区にケーブルテレビの収録をお願いしており、藤沢地域については365歩のマーチに合わせた運動を行った。大東地域については、大東音頭に合わせて体操を行った。一関地域では、「焼き鳥じいさん」の披露や「いちのせき体操」を行った。いちのせき体操は毎年、佐藤弘道先生がいらっしゃって、ユードームで行っている。

テレビに出演し、健康づくりを呼びかけるのは、初めての取組であったが、今後も知恵を出し合い工夫して、健康づくりを行っていかねばならないと思っている。検診もまだ日程があるようなので、一人でも多く検診を受けてもらえるよう周知活動をしていきたいと思う。検診の日程の変更により混乱があったかもしれないが、健康第一なので、年に一度は検診をしっかり受けていただきたいと思う。

(3) その他  
特になし。

11 担当課名 保健福祉部健康づくり課